

平成13年7月23日

第142回『21世紀塾』参考資料

(第12回提言)

水辺の道路名称・愛称を早く

『21世紀塾』代表世話人 小野 徹

【問題提起】

「源兵衛川へは、どういったらいいですか？」

「エー、この三島駅の南口から真っすぐ南へ行く道がありますから、それを道なりに行くと、楽寿園の正門があって、それを過ぎて、次の変則の交差点のモリカワカバン店の角を、西に向かって・・・」

――我々はいつまで、こうした回りくどい説明をしなければならないのだろうか。

この10年「ゆうすい会」の力で、水辺の整備は随分進んできたが、せっかくの水辺へ案内するのに、どの道をどういったら良いのか――道路の名称すらはっきりしないのでは、怠慢と言われても仕方がない。

地名や通りの名称は、ふるさとの誇る最大の歴史・文化遺産なのだから、三島の水辺にちなんだ、失われた古い路地名を掘り起こしたり、それがかなわないのなら、それこそ、これから100年後の三島の歴史・文化遺産となるように、今の我々が、これにふさわしい新たな名称・愛称を付与していく。

――こうした活動も、自らの「水への想い」の結実であり、ひいてはお客様への「もてなし」となるのではなかろうか。